

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 ～ 4週間型～

【一般目標】

- 1) 医療者の一員として診療に従事することで、医師としての責任感、職業的な技能、思考法、態度を自らの実践の中で学ぶ。
- 2) 基本的診療手技とコミュニケーション技能を身につけ、患者およびその家族と良好な対人関係を築いて診療を進めることができるようになることを目指す。
- 3) 講義で学んだ知識を再確認し、また、講義では得られなかった、より実践的な知識を身につける。
- 4) 担当する患者の問題の理解に、基礎医学、臨床医学、社会医学の知識を応用でき、病因・病態の理解から診断・治療までの一連の流れを総合的に理解する科目横断的な知識の応用と、問題解決型の思考過程を身につけることを目指す。
- 5) 実際の医療に直接接するなかで、自分の将来の医師像を具体的に構築する。

【到達目標（行動目標）】

- 1) コミュニケーションを通じ、患者および家族と良好な人間関係を築くことができる。
- 2) 診療記録とプレゼンテーションが正確にできる。
- 3) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科診察を適切に実施することができる。
- 4) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科の主要症候を理解し、鑑別診断の原則に基づいて以後の診療の計画を立案することができる。
- 5) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域で行われる主要検査について、概要、有用性、限界、危険性を理解し、結果を解釈できる。
- 6) 以下の検査については耳鼻咽喉科・頭頸部外科実習中に実際に施行し、所見ができるようにする。
 - ◎ 咽頭・喉頭ファイバー
 - ◎ 頸部エコー
- 7) 医療チームの構成や各構成員（医師、薬剤師、看護師、その他の医療職）の中での自らの役割を理解し、チームの一員として参加できる。
- 8) 自らが習得した知識・技能を同級生および下級生に教え屋根瓦式の医療チームを支える。

【注意事項】

- 1) 端正な服装を心がけ、清潔な白衣を着用すること。ネームプレートを付け、靴を履くこと（サンダルは禁止）。
- 2) 患者さんや他の医療スタッフと接する際には大人としての礼節を保ち、態度、言葉遣いに気を配ること。特に、患者さんと接する際には、実習に協力していただくことに対する感謝の気持ちを忘れないこと。
- 3) 守秘義務、個人情報の管理には常に留意し、患者さんのプライバシー保護にも気を配ること。また、予断や想像に基づく無責任な情報は決して伝えないこと。
- 4) 欠席、遅刻の場合は必ず届け出ること。正当な理由のない欠席については、卒試の受験資格を与えないこともある。

【実習の内容】

- 1) 第1週の月曜日午前中にオリエンテーションを行い、ポートフォリオを配布するので、実習中に学んだこと、体験したことを実習中毎日漏らさず記入すること。また、実習中に調べた知識や検索した文献なども、すべて綴じ込むこと。
- 2) 第1週の月曜日に指導医より実習の内容の割り当てを行うので、以後は実習期間中、担当症例の指導医に指示を仰ぎ可能な限り行動を共にすること。指導医の受け持つ患者と一緒に診療し、主治医団の1人として入院から退院までの医療に参加すること。具体的にどのような診療行為を行うかは、逐一指導医の指示を仰ぐこと。
- 3) 病歴聴取や診察で得た所見、また、その後行われた検査の結果や今後の治療方針など、主治医がカルテに記載すべき事柄については、すべて学生用の紙カルテに記載すること。これは医師が実診療に使うカルテ（電子カルテ）とは別物であるが、主治医として実際に診療用のカルテを書いているつもりで、すべての情報を漏らさず正しい書式で記載すること（カルテの病棟外への持出は禁止とする）。
- 4) 月曜日の教授回診の際には、患者の概要と現在の治療の進行状態を簡潔に教授に提示すること。また、月曜日の回診後に症例カンファレンス(10階東病棟カンファレンス室)があるので、指導医の指定した症例について、主治医の代わりに症例提示を行うこと。そのために、既定の時間内で発表できるよう患者情報をまとめ、事前に準備しておくこと。

外来実習

- 1) 適切な問診がとれる能力と共に、患者心理を理解し、患者に接する態度を身につける。
- 2) 耳鼻咽喉科所見の診察法を習得する。
- 3) 問診・耳鼻咽喉科所見に応じて、検査計画を立てる能力を習得する。
- 4) 耳鼻咽喉科検査法について、適応や検査法の実際を理解する。

病棟実習

- 1) 個々の患者に対して、適切な治療計画を立案する。
- 2) 担当患者に対して入院の原因となった病態の医学的な理解を深め、患者の QOL を考慮した全人的なアプローチを学ぶ。
- 3) 病棟におけるチーム医療の一員として医師のなすべき役割を理解する。

手術室実習

- 1) 一般的な外科手術手技のみではなく、耳鼻咽喉科に特有の内視鏡・顕微鏡下手術を理解する。
- 2) 主治医団と共に手洗いをし、手術を間近に見ることで耳鼻咽喉科領域の解剖ならびに疾患の病態に関する理解を深める。
- 3) 術前・術後の患者管理について習得する。

学外臨床実習

- 1) 限られた期間であるため大学病院の手術のみで網羅できない手術があるため、学外の施設と協力して手術を中心に臨床実習を行う。
- 2) 指導医の監視の下に、初診患者に対して問診を聴取した後に、指導医の診察を見学し、適切な問診が聴取出来ていたかを確認する。
- 3) 実習等協力機関に所属する臨床教授ならびに臨床准教授から実地医療の指導を受け、その医療機関の見学も行う。

【集合場所】

第一週月曜日は耳鼻咽喉科医局（研究棟 A 1 階）に午前 9 時に集合すること。
第一週月曜日が休日の場合は火曜日の午前 9 時に耳鼻咽喉科外来に集合すること。
以後はオリエンテーションにて指示。

【スケジュール】

基本週間スケジュールは下記のごとくであるが、研修希望者の希望や実習期間等も考慮に入れて、個別にスケジュールを決定する。

詳細はオリエンテーションにて指示する。

第一週	院内にて実習（月曜日にオリエンテーションを行う）
第二週	院内にて実習
第三週	関連病院にて実習（院内にて実習）
第四週	院内にて実習

【評価】

学生の評価は以下のように行う。

評価項目	配点
指導医による学生の行動内容の評価	20
教授回診での患者提示のでき具合	20
カンファレンスでのプレゼンテーション	20
学生用カルテの内容	10
ポートフォリオの内容	20
ケースレポート	10

状況により教授回診が行えない場合はそのほかの項目で総合的に評価する。

【担当教官】

竹野 幸夫	教授
上田 勉	准教授
石野 岳志	講師
濱本 隆夫	講師
樽谷 貴之	助教
堀部 裕一郎	助教
築家 伸幸	助教
竹本 浩太	助教
西田 学	助教
川住 知弘	助教

【研修予定施設】

県立広島病院
広島赤十字・原爆病院
マツダ病院
JA 広島総合病院
呉共済病院
中国労災病院

【連絡先】

耳鼻咽喉科医局：研究棟A1階
(TEL：082-257-5252 jibi@hiroshima-u.ac.jp)